



資料名 | 護符 (甲馬紙)
 標本番号 | H0208376
 地域 | 中国、雲南省
 サイズ | 縦 16cm × 横 12cm

想像界の生物相 天狗の鼻

日本学術振興会特別研究員 PD
(京都精華大学)

く る し ま は じ め
久留島 元



資料名 | 絵馬 (天狗面図)
 標本番号 | H0015280
 地域 | 日本
 サイズ | 縦 21cm × 横 24cm



資料名 | 仮面 (天狗)
 標本番号 | H0012060
 地域 | 日本
 サイズ | 高さ 15cm × 幅 11cm × 厚さ 7.9cm

◆◆◆天狗の鼻は「高い」のか◆◆◆

ヤマザキマリの漫画『テルマエ・ロマエ』は、古代ローマの浴場設計者が、なぜか現代日本(の風呂場)にタイムスリップする荒唐無稽な展開が人気を博した。映画版では、阿部寛、北村一輝ら彫りの深い日本人俳優が古代ローマ人を演じたことも話題になった。作中、まさかタイムスリップしたとは知らない主人公は、出会った日本人をローマに從属する民族だろうと考え、「平たい顔族」と名付ける。たしかに日本人は「平たい顔族」だ。

われわれ「平たい顔族」にとつて、大きく高い鼻は威圧感がある。そもそも「鼻が長い」ではなく「高い」という表現に、山や身分に対するのと同じ肯定的なニュアンスがある、という国語学者の指摘もある。一方で「鼻高」は、気取った、傲慢な言動をあらわすことばとして、平安時代から存在していた。憧れとともに、どこか近寄りがたい、怖いイメージ。天狗の高い鼻も、「平たい顔族」の「鼻」に対する畏怖がこめられているのだろう。

ただ、よく知られた赤い顔に高い鼻の天狗面は、室町時代に入って成立したものである。鎌倉時代の天狗像はトビを擬人化した姿で描かれるのが普通で、能面

になって大きな鼻の天狗像が定着したようだ。もとはトビのくちばしを表現した鼻が、誇張され、やや滑稽に造型されたものと思われる。館蔵の面や絵馬のように、鼻高の天狗を大天狗、鳥類型を大天狗に仕える烏天狗と位置付けたのは、江戸時代に入ってからだろう。

◆◆◆鼻高の異形◆◆◆

しかし、じつは「鼻高の異形」の造型じたいは、古くから存在していた。福井県の「王の舞」が有名だが、日本各地に鼻高の異形が祭礼行列を先導する芸能が伝わっている。こうした異形たちは、記紀神話の猿田彦であるとも説明される。

猿田彦は、天孫降臨に際し道案内を務めたと語られる神。眼光きらめき、背丈は七尺、鼻の長さ七咫(たて)という異相で、道祖神とも同一視される。咫は親指と人差し指(一説に中指)を広げた長さで、約一八センチというから、七咫は二二六センチ。かなり巨大な鼻である。この神が「王の舞」などの露払いを務める鼻高の異形と結びついて理解され、中世以来の記紀神話解釈のなかで定着したのだ。

芸能を先導する鼻高面の起源はかなり古く、根強い。さかのぼれば、正倉院に

も収蔵される伎楽面の治道(ちどう)に行きつく。ペルシャ人を模したともいうこれらの面を異形とよぶのははばかられるが、芸能における鼻高面が猿田彦を経由し、天狗につながったようである。

◆◆◆天狗の由来◆◆◆

ところで、中国ではもともと「天狗」は文字どおり「天の狗」をあらわし、犬のような大音をたてて落ちる流星(隕石)や、空を飛ぶ犬のような怪物だとされる。また、日蝕を引きおこすとか、子どもに病気をもたらすとかいった伝承もあり、特に雲南地方では天狗除けの護符も多く作られている。日本では、中国の「天狗」から空を飛ぶ性質だけを受容してきたが、「鼻高」の天狗像にも、どこか異国のイメージはつきまといっている。



「伎楽面 治道」(重要文化財)
 東京国立博物館所蔵
 Image: TNM Image Archives